

マス類の県内需給状況調査

とりまとめ：芦澤晃彦

本調査は全国養鱒技術協議会提出資料として、県内の養鱒関係者に種苗生産状況を聞き取り調査し、とりまとめたものである。調査内容は、種卵生産量（普通魚・バイテク魚）、種苗生産量（普通魚・バイテク魚）、河川・湖沼への放流種苗出荷数、埋没放流用出荷卵数、普通魚の種卵種苗価格、バイテク魚の種卵種苗価格である。このうち、年間種卵生産量、年間種苗生産量、河川・湖沼放流用種苗出荷量、埋没放流用出荷卵数を以下に示した。

1 今回調査した養鱒経営体数

今回調査した経営体は32経営体であった。

2 県内の生産量

令和6年の年間種卵生産量（表1）、年間普通種苗生産量（表2）、河川・湖沼放流用種苗出荷量（表3）、埋没放流用出荷卵数（表4）は次の表に示すとおりであった。

表1 年間種卵生産量

単位（万粒）

魚種名	普通卵				バイテク卵			
	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	計	全雌二倍体	全雌三倍体	計
ニジマス		590.0	280.0	483.6	1,353.6		8.0	8.0
ヤマメ			15.0	210.8	225.8			
イワナ				187.0	187.0			
アマゴ				59.4	59.4			
ヒメマス			1.0	27	28.0			
ブラウントラウト	2.0			5.6	7.6			
カワマス				3.7	3.7			
アメマス				4.5	4.5			
スチールヘッド				4.8	4.8			
サクラマス			10.9		10.9			
オショロコマ				4.5	4.5			
カットスロート	3.7				3.7			

表2 年間普通種苗生産量

単位（万尾）

魚種名	生産尾数(2g換算)
ニジマス	806.6
ヤマメ	123.9
イワナ	91.4
アマゴ	54.9
ヒメマス	24.2
ブラウントラウト	7.2
カワマス	6.0
アメマス	3.0
スチールヘッド	2.0
サクラマス	7.8
オショロコマ	0.1
カットスロート	0.7

表3 河川・湖沼放流用種苗出荷量

単位（万尾）

魚種名	生産尾数(2g換算)
ニジマス	7.7
ヤマメ	19.2
イワナ	10.9
アマゴ	20.7
ヒメマス	29.0
ブラウントラウト	0.1

表4 埋没放流用出荷卵数

単位（万粒）

魚種名	年間放流数
ヤマメ	16.0
イワナ	11.0

3 魚種別生産経営体数

魚種別養殖経営体数と種苗生産経営体数は表5に示すとおりであった。

表5 魚種別養殖経営体数と種卵生産経営体数

魚種名	養殖経営体数	種卵生産経営体数(%)
ニジマス	24	8 (33.3)
ヤマメ	17	9 (52.9)
イワナ	18	9 (50.0)
アマゴ	10	8 (80.0)
ヒメマス	5	2 (40.0)
ブラウントラウト	5	2 (40.0)
サクラマス	2	2 (100)
カワマス	2	2 (100)
アメマス	1	1 (100)
スチールヘッド	1	1 (100)
オショロコマ	1	1 (100)
カッスロート	1	1 (100)
イトウ	2	1 (50.0)

4 種卵生産量と種苗生産量の経年変化

(ニジマス)

令和6年の種卵生産量は前年比145.4万粒(12.0%)増の1,353.6万粒、種苗生産量は前年比17.1万尾(2.1%)減の806.6万尾であった(図1)。

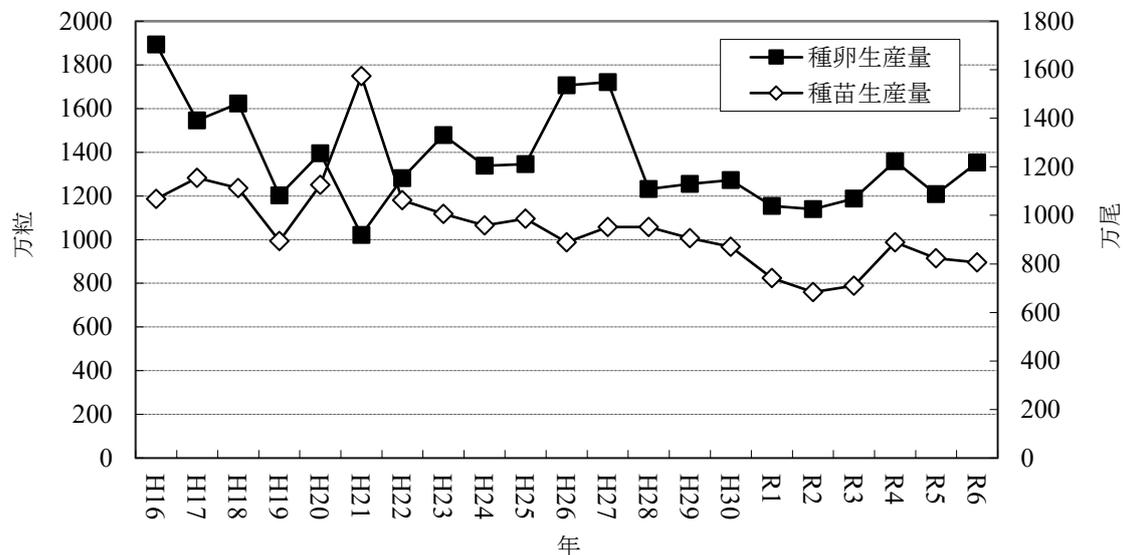


図1 ニジマスの種卵・種苗生産量の経年変化

(ヤマメ)

令和6年の種卵生産量は前年比12.8万粒(6.0%)増の225.8万粒、種苗生産量は前年比24.5万尾(16.5%)減の123.9万尾であった(図2)。

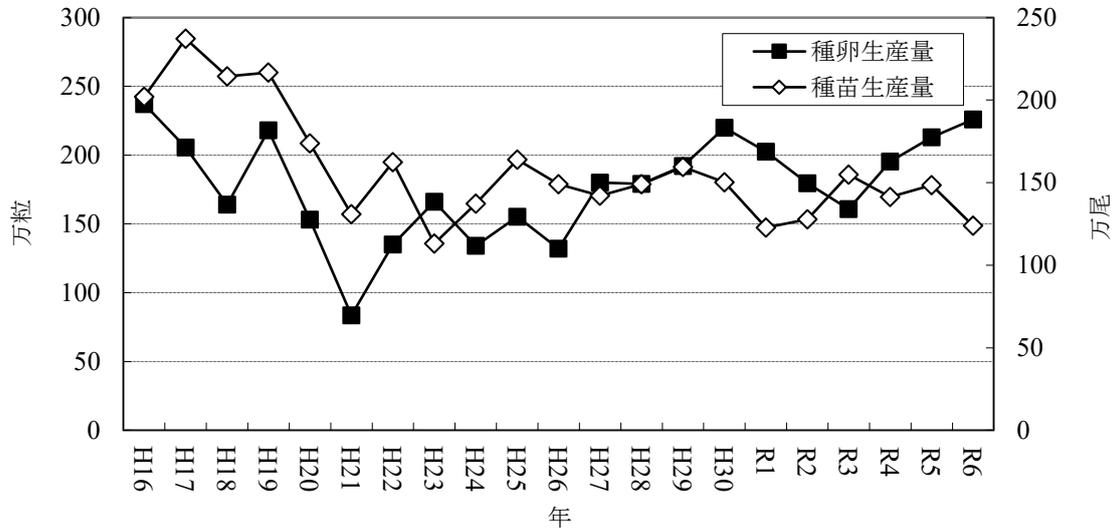


図2 ヤマメの種卵・種苗生産量の経年変化

(アマゴ)

令和6年の種卵生産量は前年比6.4万粒(12.1%)増の59.4万粒、種苗生産量は前年比1.6万尾(3.0%)増の54.9万尾であった(図3)。

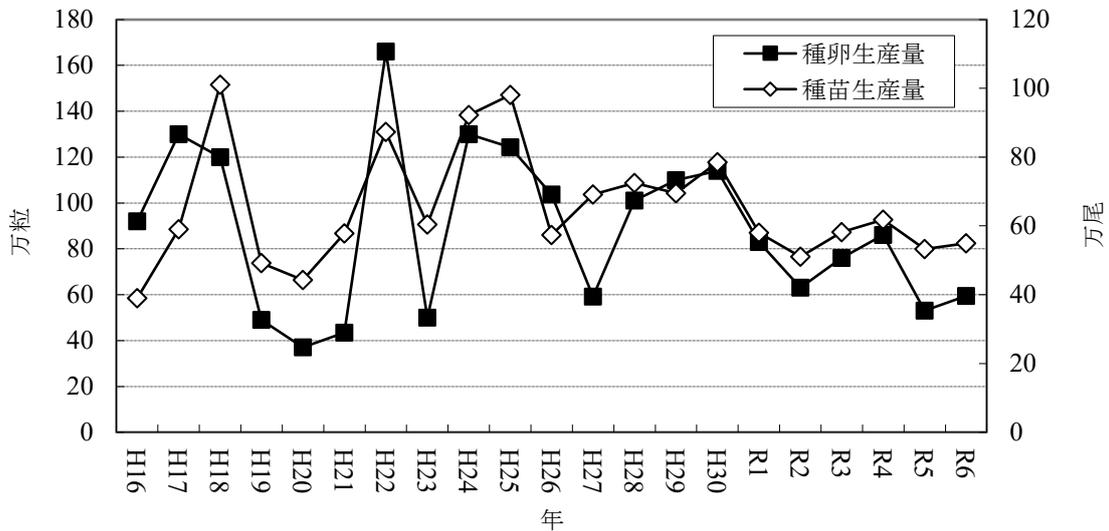


図3 アマゴの種卵・種苗生産量の経年変化

(イワナ)

令和6年の種卵生産量は前年比27.9万粒（13.0%）減の187.0万粒、種苗生産量は前年比23.1万尾（33.8%）増の91.4万尾であった（図4）。

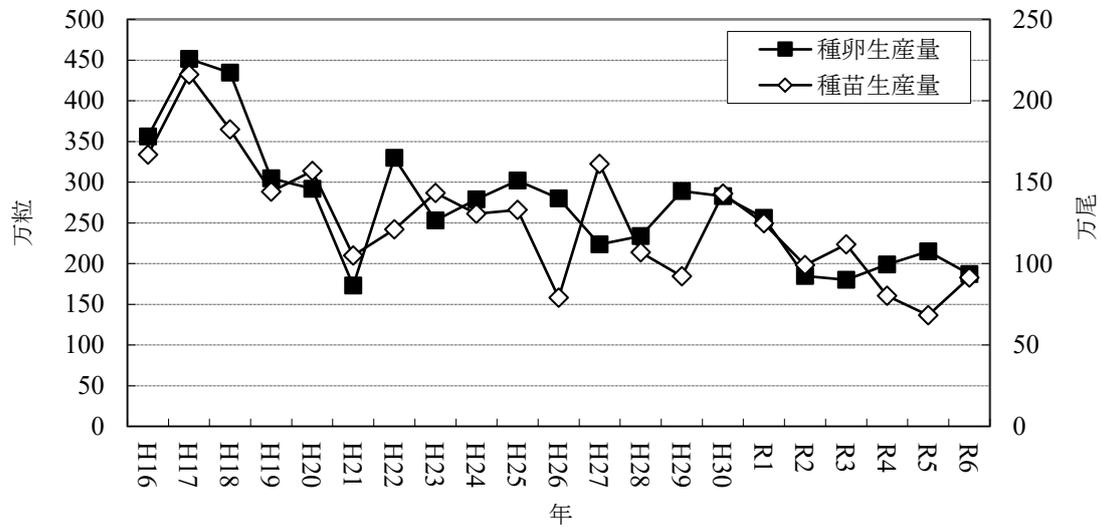


図4 イワナの種卵・種苗生産量の経年変化